

A quill pen is shown in an inkwell on the left side of the image. The background is a dark red color with a subtle gradient and a dark, curved shadow-like shape on the right side. The text is centered in the upper half of the image.

聖書の文学1

シリーズ・日本人と聖書

第18回

日本で花開いたキリスト教文学

- 明治・大正時代の文豪たちは, ことごとく新しく刺激的なキリスト教の影響を受けた
- しかし, 聖書のメッセージをストレートに伝える文学は生まれなかった
- 戦後, 広く認められるキリスト教文学が生まれた
- 遠藤周作・曾野綾子／三浦綾子ら



遠藤周作 ～経歴～



- 1923年 東京市巢鴨で生誕
- 1933年 父母が離婚。母に連れられて日本に帰国。カトリックの洗礼を受ける。
- 1943年 3浪して慶応大学の文学部に
- 1950年 戦後初の留学生として仏留学
- 1955年 『白い人』で芥川賞受賞
- 1966年 『沈黙』発表。谷崎潤一郎賞受賞

遠藤周作 ～作品～

- 『海と毒薬』

- 戦争末期の九州の大学付属病院における米軍捕虜の生体解剖事件を小説化。神なき日本人の「罪の意識」の不在を描く

- 『イエスの生涯』

- 裏切られ、見棄てられ、惨めに死んだイエス。彼はなぜ十字架の上で殺されなければならなかったのか？
遠藤の描く人間イエス



遠藤周作 ～作品～

• 『沈黙』

- 禁教下，布教のため来日した司祭が，日本人切支丹を助けるために自らは踏み絵を踏み，「転ぶ」話。遠藤文学（神学）の集大成

• 『深い河』（ディープ・リバー）

- インドで出会った7人の人生を通して，神とはそして宗教とは何かを問い直す。異なる道を辿ろうとも目的地（神）は同じ？



遠藤が伝えたかったもの

- 「裏切り」と「愛」: 三浦朱門
 - 「沈黙」に描かれた転びバテレンはキリストを裏切ることでその愛を確認した
- 「悲しみに寄り添う人, イエス」: 井上洋治
 - 「深い河」でイエスを玉葱と呼んだのは、「幾らむいても愛ばかり」だから
 - 「隠れキリシタン」のつらさ
 - 人間は神ではなく合掌する側である



遠藤が伝えたかったもの 「母なる神」

- 「キリスト教をどのようにして日本人にとけこませていくか」
 - アメリカン・プロテスタンティズムの問題
 - 内村鑑三が造り上げたイメージ
- 「母なる神」
 - キリスト教の神は雷おやじとやさしい慈母の両面を持つ「両親の神」。「母のイメージを持ってきた方が日本人の感覚に合う」

すべてを包み込む神

しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。

「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」

<ヨハネ福音書8章>

